

正解に傷つけられている人を救うのが・・・

後藤 忠 2021.09.21 修正

「正解に傷つけられている人を救うのが音楽」この言葉は COVERS (NHK BS プレミアムの音楽番組) で MC を務めるリリー・フランキー氏が番組で語った名言である。

その日は中森明菜特集で、ヒット曲「飾りじゃないのよ 涙は」を作詞・作曲した井上陽水氏の音楽観を評して語ったものである。

これは道德の時間と似ている！

正解に傷つけられている児童生徒を救うのが道德・・・!?

確かに、「**道德には、(1+1=2、10=1,000cc のような類いの)正解・不正解はない。児童生徒が一生懸命考えて出した答えはみんな正解だ**」と昔から言われてきた。

本当に正解・不正解の区別がなくてよいのか

少しねじ曲げるかもしれないが、道德の学習では本当に正解・不正解の区別がなくてよいのか？

善・悪の区別があるのだから、正解・不正解の区別だってあるはずだ。児童生徒の考えが明らかでない間違いであるのに、それを正さず、ただ漫然と認め、よしとするのはあまりにも不誠実、欺瞞ではないのか？

しかし、一方でこんなことも言われてきた

「**道德の時間は教科の学習に苦手感や困り感をもっている子が活躍できる時間だ**」と。

確かに、各教科の学習の多くは、合理的な思考力や判断力、正確な理解、確かな知識、また、健康な体力や優れた運動能力、巧みな技能などを養う学習で、それらは本人の素質などと相まって、「能力」として容易に他の人と比較できるし、そこに優劣をつけることだってできる。

しかし、道德は(比較的)それができない。

それは、道德の学習は児童生徒の心情とか、人柄とか、性格とか、特性とか、適性などの人間性や個性が学習の主役となって進められるもので、それらの優劣を他の人と単純に比較することはできないし、してはならない。

その意味で、「正解に傷つけられている児童生徒を救うのが道德」と言えると思う。

では、どう考えたらよいか

分かりきったこと(正解)をわざわざ児童生徒に考えさせたり、教師が内心(密かに)期待している答え(正解)を誘導して言わせたりするような、下心満載の道德授業をしてはならない。そもそも、児童生徒の発言内容の正解・不正解がとやかく取り沙汰されるような授業をしてはならないということである。

児童生徒が自己の体験に基づき、心に映る心象風景を自由に、自然に、屈託なく吐露し合い、それを聴き合う学習を行うことがとても大事だと思う。

これと同じことが「本音・建て前」についても言える。研究協議会などで「今日の授業は本音がたくさん出ていたのでよかった」とか、「建て前に終始していた」などの意見が出されると、私は「本音がよくて、建て前が悪いと一概に言えるだろうか?」、「本音を言う子は誠実で、建て前を言う子は不誠実だと決めつけるのは予断ではないのか?」、「人間には、本音を押し殺して建て前をとおさなければならない時だってある。」と話す。

いずれにしても、「正解・不正解」、「本音・建て前」が問題にされない授業をつくることに尽きる。その鍵は「発問」が握っている。

※ すると、「教職あらかるとを読んだ！」と言う方から、こんな面白い?感想をいただきましたので、ひとつ紹介します。

受け止め方や感じ方は人それぞれだとあらためて思いました。

「正解に傷つけられている人を救うのが音楽」は中森明菜の音楽の世界観だと思いました。これが井上陽水と中森明菜が作り出した音楽というものなのでしょうね。

常識的な生き方とか、当たり前と言われていた行動からはみ出してしまった自己肯定感の低い若者にとって、彼女の音楽は「救い」だったと思います。

「♪私は私よ 関係ないわ〜♪」と歌う彼女の主張は、正解に傷つられていた人たちに希望や夢を与え、後藤先生がよくおっしゃっている「私らしく生きる道があるんじゃないか」、「こんな私でも幸せになれるかもしれない」と、人間として生きる自信や誇りを育むきっかけになったと思います。それは、道徳も同じですよ。

先生の原稿にあるように、正解・不正解や本音・建て前が問題になるような授業を多くの教員が何の疑問も持たれずに行っているのは、教師用指導書の弊害だと私は思っています。

多くの教員は目指すべき道徳授業のイメージをもっていないので、指導書通りにできたら「正解」だと思っています。

指導書通りの発問をして、指導書に例示されている回答通りに児童が発言できなかつたら、「今日の授業は失敗だった」と自己評価しています。

自分の学級の子どもの実態に即した学習課題や発問ではなく、導入から終末まで指導書通りなので、子どもたちの学習意欲は始めから萎えてしまっている授業をよく見ます。そして、授業がうまくいかなくて、教員も自己肯定感を低下させています。

「うまくいかないに決まっているでしょ」と思うのですが、教員は「どうして? 指導書通りにやったのに…」となってしまいます。

「正解なんかに振り回されず、私は私 もっとステキな自分を目指して磨きをかけなさい」と歌う中森明菜の世界観から学ぶところは大きいのではないかと思ってしまうました。

先生の主張からズレてしまっているかもしれませんが、いろいろ考えることができた先生のこの原稿はとてもおもしろかったです。ありがとうございました。